

奈良高専 図書館だより

1. 読書計画の一助として
2. 視聴覚教育のすすめとライブラリーの紹介
3. 卒業生と読書
4. 図書室からお知らせ等
5. 新着図書案内

1982年4月 奈良工業高等専門学校 発行

読書計画の一助として

図書館委員長 小谷 稔

新入生の諸君には図書室からもまずおめでとうと祝福したい。新入生を迎えた四月の学校は校内に清新の気がみちあふれてさわやかな新出発の季節である。そして私は年々の春に思うことであるが、高専という5年間の青年期が順調に始動し、展開し、より大きな成長への土台となってほしい、青春という季節にふさわしい日々であってほしいと願うのである。5年間にまるで植物のように目立って成長するその身体に遅れることなく精神世界も豊かにふくらんでほしいと願うのである。

吉野弘という詩人の作品にこんなものがある。

生命は 自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい

花も めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で

虫や風が訪れて めしべとおしべの仲立ちする

生命は その中に欠如を抱き

それを他者から満たしてもらうのだ

生命というエネルギーにみちた力もそれは欠如の原理によって成長するという。そういえば今日のこの姿で私たちをあらしめているもの、それはどれほどの多くの他者の力添えであろうか。青年期は自立の試練がつづく時代であるけれども、自分自身だけで自立できるものではない。大地に堂々と樹冠をかざしてそびえる大樹が太陽の光と見えない地下からの養分を吸収してはじめてその自立の形を全うするように、他者からの力を大きく取りこむほど自立の根は深く、背丈は高くなるだろう。この自立を助けるものは、諸君の生活の全域に存在するが、その中の大切なものとして読書がある。

高専の特色は早くから専門の技術を修得できるところにある。専門的ということは、裏返して言えば専門以外のことは知らないということである。昔の時代は職業が世襲され、親の仕事を手伝って十歳前後からおぼえてその道の熟達者になるというので不自由はなかったであろうが、今はそうではない。科学技術が人類や地球の未来の幸福を責任をもって考えなくてはならなくなっている。高専という5年間の定住権を手に入れた安心から5年間だけの過ごし方の要領やパターンができ上がって、も

っとスケールの大きいことを考える学生が見られにくくなっている。大きいことでなくてもよい、人生や社会をじっくりと考える学生がめずらしくなっている。そういう意欲は読書によって養われることが多いのである。確かな専門の学力の上にさらにその専門性を大きく社会的・未来的視野に展開させる情熱と教養を身につけてほしい。

図書室にはそうした専門の学力を強化する本、限られたカリキュラムの不足を補う分野の本を多くそろえている。本を三大別して実用書、娯楽書、教養書とすることがある。実用書は学生の場合、教科書やその参考書など日々の課業に強制される本が主体であり、また運転免許の取り方、〇〇の方法と技術、といった類の本である。実用の本で追いまかれるとゆとりを失って、それを忘れさせる本、つまり娯楽書に心が向く。漫画やSFなど大衆の読物である。高専ではこの二つの両極に流される形が多い。そこで最も意志の強さ、理想の高さを必要とする教養書の存在に注目してほしい。読まなくても実害のない教養書は、「自分はこのままの生き方でいいのか、もっと高い生き方はないのか」と、ある日自分をふりかえった人たちに親しく尊いものになるはずである。奈良高専必読図書100選も、そうした世界の入口である。今年の読書計画にこの100選の一部を入れてほしいと思う。またこの100選の解説書もやがて完成することになっている。

視聴覚教育のすゝめとライブラリーの紹介

昭和56年度 図書館委員会視聴覚部会長 中谷 洵

本校において視聴覚教育の必要性が論ぜられ、はや数年が経過した。その間に各種の視聴覚機器が整備され、特活用の教材などもかなり用意されている。しかしその活用はとなると決して充分とは云えない。一般に視聴覚教育は教育上かなり有効な手段であると云われている。しかしその効果を理論的に評価することはむづかしく、視聴覚機器を用いたから教育的に効果があったという明確な結論が出せない。この点が一般に利用の妨げとなっているように思う。ところが、現実これら機器を利用している学校における学生の評判は非常によく、今後継続して実施することを希望している学生が90%以上にも及ぶと云われている。理論的にどうこういう前にまず実施し、結果について評価し少しずつ改善を加え、まず教育者の身につくことが重要かと思われる。さらに自主教材を製作することによって教科内容が整理され、より能率的かつ効果的な教育が期待されると思われる。視聴覚部会としては今後ますますこれら機器の有効利用を期待し、ここに55年度準備されたライブラリーの一部を紹介する。

<16mm映画>

- ・ステンレスの世界 (岩波映画製作所)

概要：錆びにくい鉄“ステンレス鋼”はニッケル、クロム、アルミニウム、チタンなど添加する元素により様々な特性が開発され、家庭用から産業用まで用途は多岐にわたっている。本映画は、ステンレス鋼の科学的分析をはじめ、製造工程や用途、および新製品カラーステンレスを紹介している。(鋼材クラブ、ライブラリーの案内より)

<ビデオテープ>

NHK高校生の広場

- ・ホームルームを楽しく

ねらいと内容：新しい顔ぶれの新学期のホームルーム。そのホームルームをなごやかに、また明るく活発にするための一方法として室内ゲームの具体例を紹介する。

- ・ホームルーム新聞をつくらう

ねらいと内容：ホームルーム新聞をつくり、発刊することで、ホームルームをまとめた過程を紹介し、ホームルーム活動の一つのあり方を示す。

- ・議事進行

ねらいと内容：ホームルームなどの話し合いが盛りあがらないときの原因としては連帯的な

さ、話し合いのルールを知らないことなどが考えられる。討論と討議の違い、少数意見の扱い方、修正意見の出し方など、原則的な議事進行法を事例をもとに提示したい。

• わたしの生き方

ねらいと内容： サルとの対話を通して、サルと人間とのかかわりあいについて研究している京都大学霊長類研究所教授の室伏靖子さんの生き方を紹介し、学問すること、自然と人間などを考えるきっかけとする。

• 体育祭

ねらいと内容： ひとりひとりの能力と個性を生かしつつ、協力しあって、ひとつのことを成し遂げていくことはむずかしい。特色ある体育祭を紹介しながら、連帯や共同という面から体育祭の意義を考える。

• ああ、オートバイ

ねらいと内容： オートバイのスピードに魅せられて、つっ走る高校生が増えている。交通事故・非行化への第一歩……などといわれるが、生命の安全とスピードに駆られる心理について考える。(以上NHKテレビ 学校放送より)

卒業生と読書

僕と読書

機械工学科 5年 佐竹 彰

過ぎてみれば、瞬く間の5年間であった。「光陰矢の如し」などという陳腐な表現があまりによくあてはまるのが我ながら面映ゆいが、これも卒業という感傷が成せる業であろうか。

5年前、造船技師を目指して本校の門をくぐった僕ではあったが、じきに、僕は本校の雰囲気にも馴染めないのではないかと感じるようになった。生来の孤独癖も手伝ってか、僕は1人であることが多くなった。そんな時、僕の慰めとなったのが読書と音楽だった。

人生における文学と芸術の意義というのは、いかなるものだろう。その効能としては先ず、僕がそれらに求めた慰安というものが挙げられよう。しかし、人間の思考が進歩するにつれて、もとより無限の表現力を備えているこれらは、決して、慰安という低い次元に留まてはいない。人は、これらを通じて、真実を把握しようとするのである。これがもう一つの意義である。作品による追体験と作品との対話による、人格の向上というものなのである。

一・二年の頃、僕の読んだ作品といえば、通俗的・逸樂的で現実逃避傾向の強いものが多か

った。ところが青年期の自覚故か、或いは知的好奇心と虚栄心の発達の故か、年月を経るにつれ僕はこういった作品に飽き足らなくなり、これまで必ずといっていいほど数ページで投出していた。いわゆる名作といわれる作品を辛抱して読むようになった。無論、僕の読書に先程述べたような辛辣さがあつたとは言い難いし、読書量も微々たるものではあつたが、少なくとも一・二年の頃とは違ったものがそこにはあつたと思う。だからといって僕は、文字や芸術の持つ慰安や逸樂性を全く無視しようというのではない。それは、栄養剤をもって食事を駆逐できないのと同じだからである。

ともあれ、孤独を知ることにより、僕は読書の習慣を身につけることができた。もっとも、孤独が僕をして読書せしめたと言った方が正確だろうが、僕は一生この青春の孤独を忘れようとは思わない。

最後にお世話になった先生・職員の方々に感謝の意を表して、この拙文をとじたいと思う。後輩諸君の健闘を祈ってやまない。

人間味のある技術者として

電気工学科 5年 杉原 正人

今、高専生活の総決算ともいうべき卒研発表を明後日に控え、あわただしく準備に追い込みをかけている。一方、私たちの高専生活のほとんどを過ごした思い出深い一般科棟では、技術者の卵となるべくして紅顔可憐な美少年が争いあっているのが窓越しに見える。これまで訪れたことのない土地へいくばくかの不安等に入り乱れて複雑な思いで受験に臨んだことが、ついこの間のように思え、これまでの道程が短かったような感じがする。

希望に胸ふくらませ高専の門をくぐってはや5年、養った工業技術は目には見えないものだが、技術者としての道はある程度開かれた。しかし「卒業」とは、まだまだ先の事と思っていた言葉だった。その卒業を1カ月足らずに控え、青春期である5年間を振り返ってみると、多彩な行事や学窓において友と楽しく過した思い出が次々と頭を思い巡り、新たに5年間の終着点に自分が立とうとしているのに気づく。でも卒業できるかどうか不安に思う自分もある。“卒業にあたって”などと寄稿しておきながら留年するようなことがあれば、おまえは1年後のことを考えているのかと冷やかされそうだ。

この5年間、「実践的技術者」となるための基礎を十分修得したとは言いがたい。そして残念に思っていることがある。それは、読書にとり組めなかった、いやとり組もうとしなかったことである。これは活字離れをしてしまって、映像と音声から物語のすべてをつかもうとするテレビにお守りされて育った最近の若者に多い典型的な例である。そのため、私はそれほど熱心に図書館に足を運んだことがなかった。図書館の利用といえば、もっぱらレポートと試験勉強のために専門書を書棚から探すことにあった。実験レポートや課題の参考となる文献より一部抜き写すといったことが多く、結果として何もわからずに提出したことを今さら後悔しても始まらないことである。そういうことで、あまり文学書を借りて読もうとしなかった私にとって、夏休みを利用した読書感想文の募集が文学書に触れる唯一の機会だった。そういう私だが、3年生のとき「あゝ野麦峠」で優秀作品として選ばれてしまった。それ以来、たまに図書館へ行くとも館員のある方に「あなたが野麦峠の感想文

を書いた杉原君ね」と言われることがあり、たいへんうれしく思う反面、表現力に欠ける私が何日もかけて書いたときのことを思い出して恥ずかしくなったものだ。だからどうしてこの原稿を依頼されたのかわからず、ただこの原稿を書けば卒業できるのではないかという甘い考えで引き受けたものの、原稿を進めるにあたって、読書不足な自分の想像力・表現力のなさに嘆くばかりである。私のように、高専生には理数系の学生によく見うける文章を書くことが苦手な方もいるのではないのでしょうか。また高専生活は、極く気心の知れた仲間とばかり付き合っていくから、人間関係についてあまり気をつかうこともなく、視野の狭い人間になりがちであるように感じる。

だから、世間で技術者は冷たい人が多いと言われたいよう、人間味豊かな技術者の一歩として読書の習慣をつけるよう心がけたい。それから、それぞれの新たなる道で成人として、それを切り開いていくには、すべての基本となる心身の健康を第一に考えて奈良高専卒業生として先輩たちに負けまいとがんばっていきたい。

最後に、高専生活において熱心な御指導を頂きました専門また、一般教科の先生、ならびに影で支えて下さいました事務職員のみなさまに心から感謝いたします。

高専生活と読書

化学工学科 5年 佐保田圭吾

一時期本ばかり読んで過ごしていたことがあった。硬い本、軟い本とりまぜて、文庫本にして週10冊以上のペースで本ばかり読んでいた。もちろん、こんなペースで読書するには授業中も含めて日がな一日深夜まで読む必要がある。たしか2～3年の頃だったと思う。

何故こんなに本ばかり読んでいたのか、今になって考えるとよく分からないが、ただやたら本が読みたく他に何もする気がしなかっただけの理由だったように思える。

その内容は、単なる乱読だった。やたら難しく意味不明の哲学書から、さっと読んでしまえるようなものまで、無茶苦茶な乱読にすぎなかった。

果して、あのような読み方が本当によかったかどうかは、疑問のあるところだが何となくいろんなものを読んで、広く浅いことを知ることが出来たのは確かである。しかし、時に名作古

典といわれるもので全然知らないものがある不安になったりするのでやはり、系統だてて読めばよかったと思うこともある。

一般的に高専生の読書というのは、読む人は実によく読んでいるが、まったく読書などしないような傾向にあるようだ。そのせいかどうかクラス別の貸し出し量なども、よく読書する人が集中しているようなクラスがあるとそこばかり目だつ感じがする。

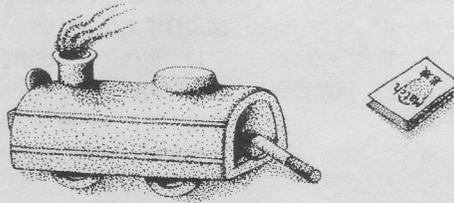
最近、高専生活 100 冊読破の進めが始まってこの傾向に変化が起りつつあるのかどうかよく知らないが、出来れば全体的に平均して読書量が増加してほしいと思う。

やはり、読書をすればどんなことにせよ、多

少は得るところもあるし、つまらないことの一つでも知識が増えるのは好ましいことであるに違いないからだ。かつて、フランスニベーコンは「知識は力なり」といったが、そんなに大層なものでもなくても、知識が生きていくうえで助けになることは往々にしてあるものである。

現在、僕の読書量はかなり減退し、週一冊になるかならないかというところだ。5年生になり、様々な事情が重って多忙だったせいもあるが、やはり怠惰のそしりはまぬがれない面も多い。

幸いにして、我校には立派な図書館があり読書するには恵れた環境にある。後輩諸君に、この恵れた環境を出来るだけ有効に生かしてもらいたいものだ。



図書係からのお知らせ

昭和57年度、図書館委員会の委員が、次のように決まりました。

一般教科	小谷	稔
〃	桐川	修
機械工学科	田中	義雄
〃	若林	敏夫
電気工学科	京兼	純
〃	中村	善一
化学工学科	山本	績
〃	河越	幹男

購入雑誌の追加について

本年4月から、雑誌コーナーに、次の月刊雑誌を追加することになりました。

トランジスタ技術	CQ出版
ニュートン	教育社
エレクトロニクス	日経新聞社
モーターマガジン	モーターマガジン社
関西のつり	岳洋社

版画「伝説の街」について

カウンターの斜め正面にかかっている額について紹介します。

「伝説の街」という標題の版画で、作者カルズーは1907年1月生れのフランス人です。

油絵、リトグラフ、舞台美術等幅広く活躍をしている作家です。

この作品は「限定番号102/175“La Vallée Perdue”」のオリジナル、リトグラフであることを証明する。1974年11月8日」というド・フランコニー社の保証書付の美術作品です。

一般の印刷物と版画との違いを比べて御鑑賞下さい。

「図書館だより」も昭和54年1月に創刊号を出してから12回になりました。図書室を利用する人は勿論、余り読書に興味を持たない人も、一人でも一歩でも多く足を運んで貰える為にはどうすればよいか、に腐心しています。よいアイデアがあればドシドシ図書室へ申し出て下さい。

新 着 図 書 案 内

＜ 総 記 ＞

大学図書館のシステム化 根岸 正光(等) 紀伊国屋
原色図解大事典 小学館
10 総合事典(せ〜ん)
雑学おもしろ読本 日本社
奈良県年鑑 1982年版 奈良新聞社
日本の博物館 講談社

2 民芸の美 伝統工芸博物館
3 民家と民具「ふるさとの博物館」
8 科学のあゆみ「科学博物館」
10 古生物から人類まで「自然史博物館」
11 北方の文化「北海道の博物館」
ジャーナリズムの読み方 戸叶 陽三 太平出版社
人類の知的遺産 講談社
16 ダルマ 30 ベーコン 34 パスカル
38 ライブニッツ 58 フッサール
61 タゴール 64 ガンディー 78 F.フェノン
ちくま少年図書館 筑摩書房
16 人類最後の日 宮脇 昭
58 西遊記の旅 菅原 篤
59 新聖書物語 新井 智
60 サルカメ合戦 村上 公敏

＜ 哲 学 ・ 宗 教 ＞

哲学概論 三宅 剛一 弘文堂
ホモ・クワエレンス 論集2 柏原 啓一 以文社
哲学入門 François Gregoire 中村雄二郎訳 白水社
野田又夫著作集 IV 思想史研究 下 白水社
「心一身」の問題 山本 信 産業図書
鶴見俊輔著作集 4 芸術 筑摩書房
無常の思想、日本の心の原点 赤根 祥一 れんが書房
中空構造日本の深層 河合 隼雄 中央公論社
アウグスティヌスとトマス・アクイナス
Etienne Gilson みすず書房
ニーチェ全集 白水社
3 遺された断想 三島 憲一訳
" 谷本 慎介(等)
パスカル著作集 IV 田辺 保訳 教文館
心理学事典 平凡社
性と性格 O. Weininger 竹内 章訳 村松書店
聖なる男女、深層への旅 秋山さと子 青土社
遊ぶことと現実 D. W. Winnicott
橋本 雅雄訳 岩崎学術
ヒューマニズムとしての狂気 岩井 寛 日本放送出版
世界の聖域 講談社
1 聖都テーベ 鈴木 八司(等)
7 アジャンター窟院 柳 宗玄
14 アッジの修道院 下村 寅太郎(等)
17 マヤの聖壇

神道の成立 高取 正男 平凡社
タントラ仏教入門 S. B. Dasgupta
宮坂 桑原訳 人文書院
仏教の真・善・美・聖 吉田 宏哲 朝日出版社
女は男の子守歌・異色大乘仏教入門
紀野 一義 水書房

＜ 歴 史 ・ 地 理 ＞

全訳世界の歴史教科書シリーズ 19~23 帝国書院
ソヴェト連邦 I~IV M. B. ネーチキナ(等)
物語世界史への旅 大江 一道・山崎 利男 山川出版
古文書への招待 藤本 篤 柏書房
皇室御経済史の研究 奥野 高弘 畝傍書房
日本名所風俗図会 角川書店
関東、江戸、京都、大阪、近畿、中国、諸国
図説日本文化の歴史 小学館
13 現代(付・総索引) 山本 明
邪馬台国はここだ 奥野 正男 毎日新聞社
日本中世社会史論 稲垣 泰彦 東大出版
中世東寺と東寺領荘園 網野 善彦 東大出版
荘園の世界 稲垣 泰彦 東大出版
日本中世都市論 脇田 晴子 東大出版
図説戦後世論史NHK放送世論調査所 日本放送出版
戦国時代人物ものしり事典 新人物往来
決断/運命の関ヶ原 新人物往来
郷土史事典 28 奈良県 昌平社
中国の歴史 5 動乱の群像 陳 舜臣 平凡社
パレスチナとアラブ人 鶴木 真 慶応通信
ローマ帝国衰亡史 Edward Gibbon
中野 好夫訳 筑摩書房
海の都の物語 塩野 七生 中央公論社
日本人の自伝 平凡社
1 福沢諭吉・渋沢栄一・前島 密
3 内村鑑三・新島 襄・木下尚江
6 福田英子・金子ふみ子・相馬黒光
8 片山 潜・大杉 栄・古田大次郎
12 鈴木貫太郎・今村 均
16 正宗白鳥・広津和郎
17 田山花袋・高浜虚子・金子光晴
18 木村艸太・亀井勝一郎
20 市川中車・初世中村雁治郎・二世市川左団次
22 沢田正二・榎本健一・桜川忠七
人と思想 清水書院
55 河上 肇 山田 洸
56 アルチュセール 今村 仁司
朝日=タイムズ 世界歴史地図 G. バラクラフ
朝日新聞社
入門世界地図の読み方 高野 孟 日本実業出版
増補大日本地名辞書 全八巻 吉田 東伍 富山房

日本地名大辞典 角川書店
 6 山形県 38 愛媛県
 日本歴史地名大系 18 福井県 23 愛知県 平凡社
 日本の街道 1~7 集英社
 日本の山河 33 新潟 41 福島 42 山形 国書刊行会

<社会科学>

ザ・ジャパニーズ E.O.Reischauer 国弘正雄 文芸春秋
 これからの日本 中山 太郎・梅棹 忠雄 サイマル
 幻の繁栄ニッポン John Woronoff 野村二郎 講談社
 とまどう日本人 John Woronoff 桜井至(等) 三笠書房
 現代マルクスレーニン主義事典 別巻 社会思想社
 原 敬をめぐる人びと 原 奎一郎(等) 日本放送出版
 写真集原爆をみつめる 飯島 宗一 岩波書店
 法律は弱者のために 横田喜三郎 小学館
 現代の国際関係と自決権 松井 芳郎 新日本出版社
 調査力 原田 昌範 プレジデント社
 不可能を可能にする無意識の世界 寿海出版
 交渉力「撃」と「譲歩」の研究 藤田 忠
 プレジデント社
 フリーメーソンとは何か 久保田政男 日本工業新聞
 遊びの社会学 井上 俊 世界思想社
 互酬性と女性の地位 J. Van Baal 田中真砂子 弘文堂
 図説性病教育の指導 竹内 勝 新思想社
 世界的女性 Phadnis Urniila 鳥居千代香 家政教育
 永遠に女性的なるもの Henri de Lubac 法政大出版
 女役割一性支配の分析 目黒 依子 垣内出版
 女・一城のあるじ 西台美智雄 理想社
 男世界と女の神話 E. Janeway 内野久美子 三一書房
 つよい女は美しい 桐島洋子・小沢遼子 ゆまにて
 教育実践の記録 8 野本 三吉 筑摩書房
 学校はよみがえる 遠藤 豊吉 冬樹社
 不安な教師たち 高杉 晋吾 日本書院
 教育を追う 内申書・偏差値の秘密 毎日新聞社
 性教育指導事典 平井 信義 帝国地方行政学会
 性教育用語辞典 重田 定正 ぎょうせい
 戦後社会科の復権 田中 武雄 岩崎書店
 高校「現代社会」全国民主主義教研 青木書店
 作者作品別国語問題総覧 明治書院
 わが国高等教育成立過程の研究 村田 鈴子 風間書房
 欲望の戦後史 石川 弘義 太平出版社
 日本の民族宗教 1~7 五来 重(等) 弘文堂

<自然科学>

科学技術と英表現大辞典 1~3 小倉書店
 理科年表 昭和56年 丸善
 技術英文のすべて 平野 進 丸善
 組合せ理論とその応用(岩波全書) 高橋 馨郎 岩波
 位相空間論 (岩波全書) 森田 紀一 岩波書店
 群とデザイン(数学選書) 永尾 凡 岩波書店
 初等整数論 遠山 啓 日本評論社
 類体論へ至る道 足立 恒雄 日本評論社

高速フーリエ変換 E.Oran Brighman 科学技術出版
 現代経済学の数学的方法 二階堂則包 岩波書店
 数量化の方法 林 知己夫 東洋経済新報
 物性科学のすすめ 近角 聡信 培風館
 原子・分子の衝突 H.S.W. Massey 小山慶太訳 共立
 気体放電の基礎 武田 進 東明社
 岩波講座現代化学 岩波書店
 3 反応の電子理論 長倉 三郎
 8 化学反応とその機構 大木 道則
 物理化学 演習と解法 下 越山 季一 内田老鶴圃
 電気化学 電気学会通信教育会 電気学会
 物性化学 (基礎化学選書 10) 裳華房
 緩衝液の選択と応用 D.D. Perrin, B. Dempsy 講談社
 電気化学便覧 電気化学協会 丸善
 膜とイオン 花井 哲也 化学同人
 化学実験の基礎知識 佐藤 弦・杉森 彰 丸善
 標準試料ハンドブック 分析化学会標準研究懇談会
 産業図書
 定量分析の実験と計算 高木 誠司 共立
 日本分析化学史 日本分析化学会 東京化学同人
 分析化学便覧 3版 日本分析化学会 丸善
 機器分析実験指針 2版 荒木 峻・田中 誠之
 東京化学同人
 超微量成分分析 1~4 産業図書
 微量化学の手法 穂積啓一郎 化学同人
 金属の化学 R.V. Parish 佐藤弦(等)訳 東京化学同人
 有機化合物のスペクトルによる同定法 3版
 R.M. Silverstein (等) 荒木 峻(等) 東京化学同人
 宇宙衛星から見た地球 C. Sheffield 旺文社
 図解天体の観測 C.A. Ronan 堀 源一郎 旺文社
 星の話 大望遠鏡の時代 吉田正太郎 誠文堂新光社
 生理活性天然物化学 高橋 信孝(等) 東大出版会
 図説種の起源 Richard Leakey 八杉 貞雄訳 平凡社
 人体に秘められた動物 香原 志勢 放送出版
 化学計測のおはなし 間宮真佐人 日本規格協会
 森と私とフクロウたち Claire Rome 至川久康 大修館
 Q&A 教師のための救急法百科 小森 栄一(等) 大修館
 心身医学入門 Medard Boss 三好 郁男訳 みすず
 40才からの健康づくり Eric Taylor B.B.マガジン
 女性の健康科学 川上 吉昭(等) 弘学出版
 ブルーバックス 講談社
 42 金属と人間の歴史 桶谷 繁雄
 467 パラドックスの世界 田村 三郎
 471 振動とはなにか、なぜ起こり… R.E.D. Bishop
 472 人類はいつどこで生れたか G.G. Strickland
 474 「勝負」の統計学 鈴木茂一郎
 475 新しい免疫学 大原 達
 476 オフィス・オートメーション 安田 寿明
 479 長寿の科学 John Langone
 480 クォーク、素粒子物理の最前線 南部陽一郎
 483 物理トリック だまされまいぞ 都築 卓司
 487 ブラックホール物理学 今枝国之助

<芸術・美術>

美術の歴史 H.W. Janson 創元社
 美と生命の法則 渡辺 俊男 泰流社
 エジプトの秘宝 I:古王国・中王国 杉 勇 講談社
 新潮古代美術館 8~10 新潮社
 奈良六大寺大観 14 西大寺 岩波書店
 全集美術のなかの裸婦 12 座右室
 現代日本画家素描集 20 山本 丘人 日本放送出版
 わが秘められた生涯 タリ 足立 康訳 新潮社
 井上武美が指導した日本の子どもの絵 現代美術社
 書道芸術 別巻4:日本書道史 中央公論社
 習字の科学 大沢 一爽 法政大出版
 無告の民カンボジアの証言 大石 芳野 岩波書店
 日本の巨木(写真集) 八木下 弘 中央公論社
 日本の戦後を考える II(写真集) 福島菊次郎 三一
 日本染織史 明石 国助 思文閣
 上代日本染織史 明石 国助 思文閣
 原色染色大辞典 板倉 泰郎 淡交社
 最新名曲解説全集 補1、2、3 音楽之友社
 音楽大事典 1、2 平凡社
 楽譜の余白にちょっと 大町陽一郎 新潮社
 現代学校体育大辞典 松田 岩男 大修館
 スポーツ用語辞典 大石三四郎 成美堂
 体育実技指導法 松田 岩男 大修館
 日本スポーツ50年史 B.B.マガジン
 日本スポーツ文学史 木村 毅 B.B.マガジン
 一流競技者の社会学 体育社会研究会 道と書院
 スポーツ規範の社会学 菅原 礼 不味堂
 スポーツ指向と社会 藤原 健固 道と書院
 新体育学講座 49、80 道と書院
 コミュニティ・スポーツへの挑戦 沢登 貞行 不味堂
 日本人の体力標準値 都立大身体適性学研 不味堂
 スポーツ障害とテーピング 手嶋 昇 不味堂
 目で見るテーピングの理論と実際 福島 英雄 不味堂
 体育・スポーツ人物思想史 岸野 雄三 不味堂
 スポーツマンシップの譜 佐藤 和兄 博文堂
 体育・スポーツ書解題 能勢 修一(等) 不味堂
 古代エジプトのスポーツ A.D. Touny B.B.マガジン
 モンゴルのスポーツ B.B.マガジン

<言語>

言語発達研究 村田 孝次 培風館
 言語学と語学教育 D.A. Wilkinson 研究社
 日英語比較講座 1~3 国広 哲弥 大修館
 シリーズ・ことばの障害 1~3 大修館
 文法の獲得 Lois Bloom 大修館
 直訳という名の誤訳 東田 千秋 南雲堂
 英語辞書の比較と分析 1 岩崎研究会 研究社
 用語大辞典 尚学図書 小学館
 角川類語新辞典 大野 晋・浜西 正人 角川書店
 外来語研究 外来語研究会 名著普及会

ジャパングリンシュ 加島 祥造 三矢書店
 広漢和辞典 上 諸橋 轅次 大修館
 英語教育シリーズ 1~5 中教出版
 英語教育の新しい展開 隈部 直光(等) 開拓社
 アメリカ英語の語法 小西 友七 研究社
 英検1級カセットブック 日本英語教育協会
 英検2級カセットブック 日本英語教育協会
 英語史 Albert O. Baugh 研究社
 だから英語は難しい 村田 聖明 ジャパン・タイムス
 英語授業過程の改善 五十嵐二郎 大修館
 私説英語教育論 中村 敬 研究社
 オックスフォード・カラー英和大辞典 福武書店
 時事英語辞典 広永周三郎(等) 研究社
 英語イデオム事典 多田 幸蔵 大修館
 スペイン語小辞典 渡辺 通訓 大学書林
 イタリア語小辞典 坂本 鉄男 大学書林
 羅和辞典 田中 秀史 研究社

<文学>

日本文学協会編読書案内 中・高編 文学協会 大修館
 増補現代俳句大系 7~11 角川書店
 ことばの歳時記 山本 健吉 文芸春秋
 古今要覧稿 1 屋代 弘賢 原書房
 近代文芸評論史 明治・大正 吉田 精一 至文堂
 島崎藤村 1~3 田中富次郎 桜楓社
 評伝島崎藤村 瀬沼 茂樹 筑摩書房
 和家版日本語文法 井上ひさし 新潮社
 画狂人北斎考 矢代 静一 PHP
 本覚坊遺文 井上 靖 講談社
 父と子 上・下 水上 勉 朝日新聞社
 翔ぶが如し 1~4 司馬遼太郎 文芸春秋
 吉里吉里人 井上ひさし 新潮社
 風の武士 上・下 司馬遼太郎 講談社
 峠の群像 上・中 堺屋 太一 日本放送出版
 道頓堀川 宮本 輝 筑摩書房
 人間万事塞翁が丙午 青島 幸男 新潮社
 歴史に抗う女たち 安西 篤子 読売新聞社
 虚人たち 筒井 康隆 中央公論社
 千輪車の発想 森 政弘 講談社
 クールなクールな家族論 三浦 朱門 読売新聞社
 町医者毒舌 庄司 肇 毎日新聞社
 黄河行 朝日新聞黄河行取材班 朝日新聞社
 私たちの東欧記 藤本ますみ NHK
 川端康成全集 1、4、19、20、22、25 新潮社
 武田信玄 1~4 新田 次郎 文芸春秋
 心 上・下 橋田寿賀子 主婦の友
 老舎小説全集 1、2、5 学研
 裏切りの季節 Andrew Boyle サンケイ
 ジョン・レノン愛の遺言 オノ・ヨーコ 講談社
 ロマン・ロラン全集 3、4、10、22、26 みすず